

談 想

現 場 で 拾 つ た 話

副 会 員 今 泉 政 勝*

いはしがき

題名は現場で拾つた話としたが實は筆者の日誌から拾つた断片である。

書きたいことを書いて見たいと思ふ事が擇山あるが書かれないこともあり書いてはいけない事もあり難しいものである。

又自分の力では説表とか表現の出来得ない事ばかりで自己に思ふ。漫談か笑話か迷語に過ぎない事柄でも現場に密接な關係ある話を拾つて見た積りである。

特殊事業、緊急工事等に從事して居るとどの角度から見ても發表してはいけない事ばかりであるが此の断片に於て現場に働いて居る人々の生活が幾分でも想像して頂ければ筆者望外の喜びである。

2 獅に追はれて一日

晴れたる標高1300米千古斧鋸の大密林地帯を磁石一つを頼りに進撃する道路隊員の勞苦は都會人の想像以上である。

住む者は猛獸と匪族のみ、禦着として天日を見ざる密林正に東滿州の屋根を行く。

水を求むるに數杯も降つて谷川に行く最も困るのは日々の飲料である或は積雪を溶かして用ゆる。

真夏でストーブがある山小屋の生活後ともなれば冷氣一人身に沁みる。ヤノ蚊の群衆が遠慮なく襲来して来る

時七月青爽に包まれた深山の一日汗になつた作業衣を洗濯に谷川を求めて下る之は人間ばかりでない猛獸も同じである漸く細流を見付けて久し振りの洗濯をなした道路隊員三名一組が歸途ほんの一寸一足遅れたために大熊と遭遇した肩には大きな洗濯物先駆の友は見えなくなる只夢中で逃げる熊は追かける方向は皆目判らなくなるそして山中を10時間も逃げ歩く。

勿論 墓舎の全員は大騒ぎとなり八方に手を捲分けて策せしも全く行方不明である時は徒らに過ぎて行く全員の焦慮は深まるばかりである。

永い夏の日光も西山に没せんとする夕刻、疲労困憊、顔面蒼白悚然として歸る。歸つた。歸つて來たとの知せに一同相抱いて泣いた。漸く我に還つた彼の態に追はれた話である。

3. 山の「ヒロイン」

山岳道路建設の挺身隊そこには眞に國家観念に生きる即ち自己を誠却して獻身的努力を奮ひ至誠愛家に奉公を致す意い人々を云ふ。

こゝに名花一輪。多くの男性の中に雄々しく活躍して居る山の「ヒロイン」弓達秋子婦人を紹介する。

女史は深山の生活實に五ヶ年山岳道路建設の挺身隊として涙ぐましい活躍をなし今も山小屋に生活して居るのである、その功績は盛大にして眞に日本女性の典型として感心せざるはなく。

山を訪れた人々大官連もこの奇麗を目の通り見て賞せざるはなく山の女王として若き麗人として君臨して居る物語は五年前に遡る即ち秋子女史の結婚當時から始める事にする。

滿洲へ滿洲と草木も驕く建国創草の事である。

土木請負業として成功し故園に歸る人々も多い中に青年實業家として堂々昂首し結婚廣告を新聞紙上に載せた誰であろう現在の秋子女史の主人公である。

端爽たる紳士情の的大陸の紳士である俄然女性のセンセーションを巻き起したのは當然である當時の大陸の憧れ萬能然は想像以上であった。

結婚の申込發到した事は勿論である。

選ばれた美しくイントリ女性誰あろう秋子女史である

女学校を卒業すると小学校で教鞭をとつて居つたのであるが多くの女性から選ばれて弓達氏と結婚した。

そして多くの人々の夢望の中にいとも華かに新天地に新婚の旅へ人生一代の樂しかる可く新婚旅行である。

然し運命は皮肉である。

幸福の絶頂から一大苦難に逢着したそれは滿洲生活に一步を印した時全く裏切られたのだ。

純眞な乙女時代の夢は空しく消えた。

青年實業家それは只の滿洲アロに過ぎなかつたのである。

悲しみ苦しみ口惜涙に死も決した。

今更運命の皮肉なのに驚愕したがどうすることも出来得ない純眞なそして神の如き清淨な氣持は目茶苦茶に蹂躪されたのである。

ここで死んで仕舞へばこの物語りの價値はないのだ。一死神に誓約した茨の道の第一歩である。

固より主人は生來の惡人にあらず大陸的な一人生活の放漫な時代に遂に打、飲む、買ふ、の堕落したのだ。

結婚によつて更生仕様とした彼である。

女性の決心は愈々絶度立派な人間にして見せる人生をかけても一個の男性を更生させずには置かない。

名もない請負の下働きに過ぎなかつた主人を激勵して日夜辛苦一步々々築き上げて行つた。

當時森本組に勤めて居た彼も妻によつて自覺めた勉強もした奮起一番努力は次第に結晶して行く即ち山の生活に國家のために獻身の努力を續けたのである。

若き女性然も都會生活になれた一女性の奥地深い生活多くの男性の中に單身で夫を激勵して剛く崇高な姿に全山の人々を感銘させた。

打、飲む、買ふの誰一人として相手にして呉れるものない主人も重く用ひられる様になる迄の勞苦は大變なものである。

今では眞に更生して重要な位置に昇格した乙女時代の夢兎らの理想の夫が出來上つたのである。

五ヶ年間の苦勞は大きかつた威大なる女性の力であるこれからは幸福である可き筈なのに運命は又しても皮肉である。

不幸秋子婦人は病床に呻吟する身となつた。

生死も判らない重病の床に就いたのである。

可憐な女性の五年の苦勞は想像以上である張詰めた氣が緩むと急に病の床に倒れたのである。

山は寂として聲なく女性に同情は集つた。

若し秋子女史が死亡したら組は最大の敬意を以つて組葬にする準備までしたのであるが。

天は正しき者のために味方する生死の境を彷徨した彼女に微光が射して來た。

永い病院生活も精算し全快したのである人々の喜びは大きい半年に亘る病氣も至誠神に通じて更生したのである。

山には春が來た。

山の「ヒロイン」秋子女史は夫を離し大勢の労働者を指揮し重要使命に邁進して居る。

神の如き姿である山岳道路建設の実談として永く語草となるであらう實に女の力は威大である。

4. 密林の王者

康德8年6月23日の出来事である。

未だ若葉に萌ゆる東滿洲の山岳地帶詳しく述べる春の街を躍るる約四〇軒の地點に名射手を以つて隊内第一の稱ある及川軍曹は掩護警班長として道路建設の第一線に活躍中偶々大豹と遭遇し單身しれを射止む。

食ふか食はれるかと云ふ言葉があるが止に此の事である。

若し彼の發見が豹より遅かつたら生命は反対に猛獸の餌食となつたかも知れない。

幸ひ自轉車に故障を生じたため約一〇〇米の岩上に遡早く大豹を發見行くも逃ぐるも出來ず身體谷つた全く絶對絶命正に間一髪決死奮闘名射手の銃口は大豹の急所頭部に寸分の狂ひもなく狙ひ四發の連射も夢中だつた。

之れより先に用意周到なる軍曹は奮闘して猛獸と一騎打の體勢にあり勇躍猛獸に突撃一擊を加るに流石の猛獸も大頭部に二發見事に命中し全く手も出ず反撃を加ふる力もなく一瞬の間に大音響と共にその場に斃れたり。

因に豹は二米余の大豹である。

沈着勇敢なる名射手及川軍曹の名は密林の王者として

東滿洲に絶賛を博せり。

5. 嫌く表彰狀

道路建設の功績により軍司令官閣下より特に表彰になりその光榮は第四小隊に輝く。

表 彰 狀

圖們地區臨時特設道路隊第一中隊第四小隊
昭和十六年九月一日臨時特設道路隊編成せらるや茨野小隊長以下隊員は勇躍山岳重疊前人未踏の蟠龍山脈に入り或は千古斧鉄の密林を跋涉踏査し或は盡日食なく险難を踏破して測量に從事し或は虎狼の巣窟を冒して道路開設作業に服する等小隊長を中心全隊員一致協力旺盛なる攻撃精神を發揮して其の任務を完遂し緊迫せる時局に即應し軍作戰路の整備に寄與せとところ極めて大なり右の行為は眞に自己を減却したる任務至上の精神の發露にして衆の模範とするに足る。

依つて茲に之を表彰す。

昭和十六年十月十四日

満洲第667部隊長陸軍少尉

正5位勳2等 関 森 孝

6. 戰時體勢と勤労奉仕

世界を擧げて戰時體勢である。

國民総力を擧げて國家の充實を圖らなければいけないが非常の場合の勤労奉仕こそ意義あるものと思ふ緊迫せる情勢下に於て誠に國家の總力戦に參加した人々が數あると思ふ。

今夏の非常時局に土木事業として第一線に活躍した勤労奉仕課がある。

美名の許に奉仕をした者も今道の時代にはあつたが。時代は進む、一致團結奉仕に燃きる勤労奉仕の尊い姿に國の力が充満して居る。

五族協和して鐵を持つ各階級重役もあれば社長も居る縣長も居れば街長も居る所長も居れば主任も給仕も居る一スコップに一綱に國の力が満満と感じる。

中でも夫が病床にあるために女性の人々の參加も多かつた。

指揮する現場監督の人々も眞剣である、赤子も抱いて参加した女性も居た男子一人のために三人の女性が參

加した牛島の人もある。

工事の完遂はこうした尊い人々の力で出来るのだ。

一日千人二千人と參加する戰時體勢下の勤労奉仕こそ非常時局に對應する國民の力であると信じる。

滿洲の勞働問題も案じた程でもない建國既に十年である外國依存も此の邊で考へねばならないと思ふ。

7. 慰問使を窺へて

奥地の第一線に處して居る人々のために慰問使が毎年来る有難い事である大臣代理として多忙の中を來られる人々それを受ける光榮の人々の喜びは大きい。

大官より「御苦勞様」と一言云われただけで感涙する第一線の人々である。

然るに筆者はここで一言苦旨を申上げる失禮の詫御咎戒を乞ふ。

筆者は慰問品の多寡を論ずるものに非ず眞實の叫びである。

例を詳しく述べると今まで來た慰問使の額を見た者が幾人あつたか。

工程處百圓ではどうにもならないかも知れない。

石鹼一箇宛買つたが本當に慰問を受けたと思つた人は幾人あろう之れでは慰問の目的にならない。

慰問の方法はモトある筈が筆者が申上げる迄もなく形式だけでは慰問にならない。

軍需はいざ知らず吾々の仲間で慰問を受け様と思つて居る人は一人もない。

然し慰問を受ける事は嬉しい事だ。

今年は大臣代理として坂上水路司長閣下と上田人事科長殿が來られた。

本部に於ても考へたなあと誰しも思つた。

有難い言葉を賜り全員感激した。

物質のない今日澤山の慰問品を頂いた苦心の跡が見える。

鉛玉、靴下、罐詰等又は將棋盤迄頂いた全く至れり盡せりの感を深くした初めて知る温かい心に接した

娯楽のない奥地に更に巡回映畫の如きものでも來ると嬉しいと思ふ。

8. 贈を捕獲する話

圖們江の下流地方のロカルカラの一一面雁を捕獲する話を紹介する。

下流地方の流域平野は相當廣大で肥沃である。ここには至し牛島の農民が住む。

國境に位置する王道築土滿洲の平和な情景である。

垣々たる國道が通じて居る。

道路工事に從事しながら彼等農民の雁を捕る悠長憎の如き姿に接する。

雁は群をなして平野一面において居る其の數は夥しい。農民達は此處彼處に罠をかける。

朝鮮牛にかくれて除々に牛は雁の群に接近して行く牛は横に歩くそして次第に罠の附近まで行く雁も一步々々移動して行くそして罠にかかる仕掛になつて居る人間と牛と雁と一體となりて行動する様は如何にも悠長なる和平な繪の様である。

9. 石頭河子異聞

圖門と珲春の眞中に石頭河の流水がある近くに涼水泉子と云ふ部落ある如く天然の清流である。

國道は流末の亂流地帯に河跡路を以つて横断して居る。然し一軒も遡ると水深も相當ある名の如く石の頭が河も山も出て居る溪流美に接する。

古城山は千年歴史を物語る今でも石器時代の遺物が出て来る。

その鹿に石道河子と云ふ部落がある。

水清き渓流の美しさに悠久千古の昔をしのぶ。

涼水泉子と石頭河子とを結ぶ一筋の流れは千年の歴史を秘めて今も變なく圖們江に注いで居る。

然るに一旦増水となると渦流激しく此の河を横断せんとして溺死せし者數知れない。

現場の者は云ふ一年には五名の溺死者があるとこれを

千年に數へて五千人平均一人と數へても一千人の死亡たがあることになる。

很みは永し石頭河子、日本字で書いたら石塔と呼んに方が適當かも知れない。

この多くの犠牲者のために河の邊に廟が建立して居る。最大の業務は架橋であるこの慘たる犠牲者を教ふものは橋である。幾度か架橋工事が心ある人々によつて施されしも不思議と成功してものはない多くの靈魂のためち架橋も空しく種々なる異變があつたそして未だに架設するものもない。

近代科學を以つてこれを征服する時期が到來した即ち重要輸送路として洪水時でも通行可能にするにはどうしても架橋せねばならぬ豫算も決定し實施に取りかかれた。

然るに又しても不思議な事が起つた工事場の小屋が一夜に倒れたり橋の足場が理由もなく倒れたり靈魂は未だ迷つ居るらしい。

神佛に祈り現場の人でで清めた即ち御祭をしたりしてそして無事に橋が出来上つた橋一つが千人の犠牲者を教ふ事になるこれから千年の後の事である、地方民の喜びは大きい。

10. むすび

現場で拾つた話か澤山ある。筆を新に始めた千古の歴史も趣味として調べて見たいと思つて居る。

滿洲の特異性としての技術的研究も澤山ありこれ折にかけて地方情説を書いて見るのも面白いと思ふ特殊地混帶於ける種々な發表が出來ないのでこんな方面の事でも奥地に働く人々によつて發表せられん事を切に祈る。

(珲春にて康熙8年11月)

—以上—